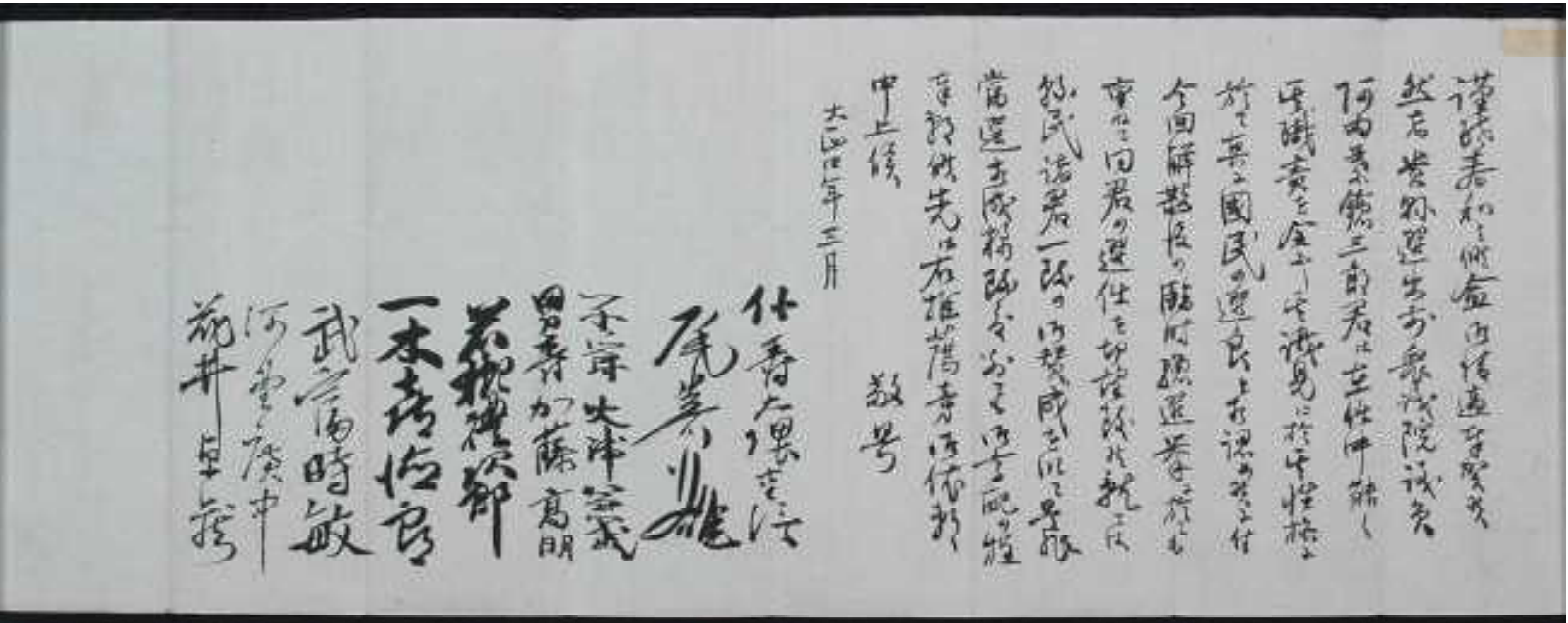


大正四年衆院選立候補者の推薦状

「〔書簡〕（前衆議院議員阿由葉鎗三郎君今回臨時選挙に於ても選任を切望致候）」

（本館寄託 高橋悦郎家文書 ろ29）



【釈文】

謹啓春和之候、益御清適奉賀候、然者貴縣選出前衆議院議員阿由葉鎗三郎君は在任中能く其職責を全ふし、其識見に於其性格に於て真に国民の選良と相認め候に付、今回解散後の臨時総選挙に於ても重ねて同君の選任を切望致候、就ては縣民諸君一致の御賛成を以て是非当選相成様致度別ても御高配の程奉願候、先は右推薦旁御依頼申上候 敬具

大正四年三月

伯爵 大隈重信
 尾崎行雄
 子爵 大浦兼武
 男爵 加藤高明
 若槻禮次郎
 一木喜徳郎
 武富時敏
 河野廣中
 花井卓蔵

【大意】

貴県選出の前衆議院議員阿由葉鎗三郎君は、在任中その職責を果たし、その識見においても性格においても真に国民から選ばれた立派な人物です。今回の解散後の臨時総選挙においても同君が選出されることを切望します。ついでに県民諸君の一致賛成をもって当選するよう、ご高配をお願いします。

伯爵 大隈重信
尾崎行雄
子爵 大浦兼武
男爵 加藤高明
若槻禮次郎
一木喜徳郎
武富時敏
河野廣中
花井卓蔵

【史料の説明】

大正時代の特徴の一つとして、大正デモクラシーと呼ばれる、民主主義的風潮の高まりがあります。この時期には政党の力が強くなり、政治に影響力を持つようになってきました。また当時は納税額によって選挙権が与えられる制限選挙でしたが、普通選挙実現への要求も高まってきました。

この史料は、第二次大隈内閣が衆議院を解散して総選挙を行ったときのものです。第二次大隈内閣は、同志会を主な基盤として国民党の一部と中正会を基盤としており、この選挙では野党最大勢力である政友会の打倒を目指していました。

そこで出されたこの手紙では、本県内の有力者に対し、阿由葉鎗三郎が再選を果たすよう支援を依頼しています。阿由葉は、無所属候補でしたが、実質的には政府与党である中正会と行動を共にしており、政府支持側の人物でした。手紙は印刷物ですが、署名は本人の自筆を模刻しています。手紙の奥には大隈を筆頭とした連署が見られますが、花井卓蔵以外の人は閣僚です。花井は弁護士でしたが代議士を兼ねており、明治末に我が国初の普通選挙法案を衆議院に提出したことで知られてい

ます。

この選挙では、大隈を支持する政党が大きく議席を伸ばしましたが、大規模な選挙干渉が行われたことが内外からの批判を招き、閣僚の辞任や内閣改造につながっていきましました。

この史料を使用した授業の展開例については、栃木県立文書館発行『学校教材史料集』第三号に掲載されています。

なお、史料の転載等をご希望の方は、文書館まで直接お問い合わせください。